



創立者 三田義正翁（一八六一～一九三五）

政財界に於いて功成り名を遂げた三田義正翁の年来の念願は郷土・岩手からの進取の気概に富んだ有為な人材育成であった。大正十五年（一九二六）二月十一日財団法人岩手奨学会を設立し私立岩手中学校を創立する。

翁の建学の理想は「石桜精神」である。巨岩という植物の育成を許すはずもない、苦難そのものの環境にも負けず、それを割るようにして根をおろし、しかも来る春ごとに美しい花を咲かせている石割桜こそ、人生の手本と思えたのである。「石桜精神」を言い換えれば「質実剛健」であり、まじめな人間、強く健やかな人間こそ、創立者の理想とする人間像であった。これらと並んで、校規三大綱領の「積慶」「重暉」「養正」を校訓とした。校是は変わることなく一貫して継承、顕現され、石割桜に象徴される「石桜精神」の発揚は光輝をまし、多くの後進の育成に貢献した。

開学以来すでに九十星霜、今ここに創立九十周年の記念すべき年を迎え、建学の父、三田義正翁のご遺徳を偲び、胸像を建立する。

平成二十八年（二〇一六）十一月 建立

本校創立九十周年記念事業

岩手中・高等学校石桜同窓会